

第10回日本救急看護学会学術集会開催報告

名古屋市立大学看護学部 明石恵子
第10回日本救急看護学会学術集会企画委員会

第10回日本救急看護学会学術集会を2008年11月7日・8日に名古屋国際会議場で開催させていただきました。本稿では、その準備から開催の実際を報告いたします。

1. 開催準備

2006年秋に明石が第10回日本救急看護学会学術集会長を拝命し、その最初の仕事は、学術集会の日程と会場を決めることでした。学術集会の参加者が千数百名と予測されましたので、名古屋国際会議場を予約し、開催日は2008年11月7日・8日に決定しました。

次は、企画委員会の設置です。まず、看護学部教授会で学術集会開催を報告し、名古屋市立大学附属病院院長と看護部長に協力を依頼しました。そして、愛知県、岐阜県、三重県、静岡県の病院や看護大学で救急看護に携わっている方、さらに愛知県看護協会に協力を求めました。その結果、上司の方々のご理解とご支援を得て21名の企画委員が決まり、2007年7月27日、第1回企画委員会開催に至りました。これらの企画委員は、さらにプログラム委員会、会場運営委員会、渉外・広報委員会、懇親会委員会、庶務・会計に分かれて活動しました(図1)。企画委員会と各委員会の主な役割・活動は以下の通りでした。

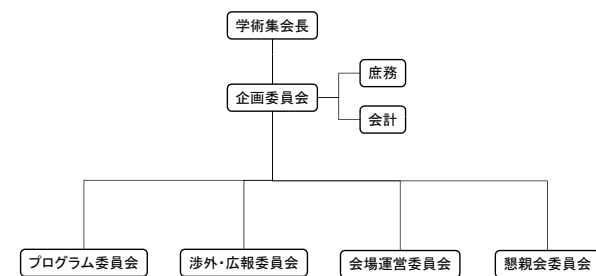


図1 学術集会運営組織図

1) 企画委員会

本学術集会の企画委員会は、21名の企画委員で構成され、その役割は、学術集会の準備促進と各委員会の活動の統括でした。メインテーマや主要プログラム、一般演題の採否、企業等への協賛依頼、広報活動、会場の運営

方法など、各委員会等で検討された事項を承認するとともに、それらの進捗状況を把握しました。毎月1回の会議に加えて、メーリングリストを利用したメール会議も随時行い、情報交換・意見交換を行いました。

企画委員会で最初に議論されたのは、メインテーマでした。企画委員全員が救急看護や学術集会への思いを述べ、それらを集約していきました。そして、数回の議論を経て「救急看護は今 救急医療の『差』のあるなかで私たちにできること・私たちがすべきこと」に決定しました。今思えば、東海4県下の救急看護に携わるメンバーで構成された企画委員会ですが、初対面という人もいるなかで、学術集会開催に向けてメンバーが一丸となるきっかけとなった貴重な議論でした。

その他の事項については、各委員会や事務局から提出された議題を検討し、承認していきました。その具体的な事項を表1に示します。

2) プログラム委員会

プログラム委員会の役割は、学術集会の企画内容とその運営方法を検討することでした。

主要なプログラムを企画するに当たり、最初にそれぞれの担当者を決めました。プログラム委員を中心に企画委員全員がいずれかの企画責任者になり、テーマ、企画意図、概要、演者候補者、演者との交渉状況などを記載した企画書を作成しました。そして最終的に、メインテーマについて学術集会参加者と一緒に考え、何らかの提言ができることを期待して、招聘講演、特別講演、教育講演、シンポジウム、セミナー、交流集会などを企画しました。また、救急看護の実践力向上のための実技セミナーとして、日本救急看護学会セミナー委員会による外傷初期看護セミナー(11月8日・9日開催)、ISLS中部との共催による脳卒中初期診療コース(11月6日に名古屋大学医学部附属病院で開催)、さらに、学術集会による地域への貢献として市民公開講座も企画いたしました。

一般演題の募集要項や査読基準、査読者の選出、査読結果に基づく一般演題の採否、発表演題の群分け、座長の選出などもプログラム委員会の役割でした。一般演題には160題の応募があり、査読の結果、149題(口演88題、ポスター61題)の発表が決まりました。

表 1 第10回日本救急看護学会学術集会 工程表

No. 1

時期	学会事務局（実務）	企画委員会・各委員会の検討事項
06年	11月 学術集会会場予約（名古屋国際会議場） 懇親会会場仮予約	
07年	5月 企画委員候補者選出（21名）	
	6月 企画委員選出と就任依頼 学会委託業者の検討	
	7月	<ul style="list-style-type: none"> 企画運営組織・各委員会メンバーの決定 メインテーマ検討に向けたキーワード抽出 主要プログラム作成方針 開催までのスケジュール案
	8月 学術集会事務局開設・学術集会長印作成	
	9月 学会委託業者の決定・契約 学術集会の口座開設	<ul style="list-style-type: none"> メインテーマ案 各委員会のスケジュール案
	10月 愛知県看護協会への後援名義依頼、助成金申請 第9回学術集会における広報用チラシの作成	<ul style="list-style-type: none"> メインテーマ決定 主要プログラム案 学会参加費の決定 第一次予算案作成
	11月 第9回学術集会の視察 第9回学術集会における第10回学術集会の予告 学術集会専用用紙、封筒の印刷 宿泊・交通取扱業者の選定	<ul style="list-style-type: none"> 主要プログラム案：招聘公演、特別講演、教育講演、シンポジウム、交流集会などの原案 会場使用計画案 協賛企業の募集方法：プログラム・抄録集広告、商業展示、ランチョンセミナーなど ポスター等の作成方針：演題募集目的のチラシと参加呼びかけのポスター
12月 ポスター作成依頼（名古屋市立大学芸術工学研究科） 協賛企業への依頼書作成と送付開始		
08年	1月	<ul style="list-style-type: none"> 主要プログラム案：招聘公演、特別講演、教育講演、シンポジウム、交流集会、特別企画、ランチョンセミナー、イブニングセミナー、市民公開講座、JNTECプロバイダークース（日本救急看護学会との共同開催） 一般演題募集方針決定 雑誌等における学会告知方法
	2月 救急関連、看護関連の雑誌における告知開始 ホームページ開設（以後、随時更新） 大幸財団への助成金申請	<ul style="list-style-type: none"> 主要プログラム案および会場使用計画案（継続） 一般演題募集要項案
	3月 一般演題募集開始	<ul style="list-style-type: none"> 主要プログラム案および会場使用計画案（継続） 救急看護学会誌における会告案 チラシ最終案、チラシ発送先案
	4月 演題募集用チラシ完成・配布開始 愛知県および名古屋市への後援名義依頼	<ul style="list-style-type: none"> 主要プログラム案および日程表・会場使用計画案（継続） 一般演題の査読方針、査読委員の選出 チラシ配布先の決定 企業への協賛依頼の促進 全体収支案：非学会員の演者・座長への謝礼、学会員の演者・座長への記念品 懇親会におけるアトラクション案
	5月 査読委員候補者への依頼 一般演題締め切り 主要プログラムの抄録依頼状の送付 学会会場の下見および担当者との打合わせ	<ul style="list-style-type: none"> 主要プログラム案および日程表・会場使用計画案（継続）：認定救急看護師委員会企画によるオープンセミナーと交流集会、脳卒中初期診療コース（ISLS中部との共同開催）の追加 主要プログラム座長の推薦 プログラム・抄録集の編集委員の決定 一般演題査読基準の決定 会場設営計画案 参加呼びかけポスター案、ポスター発送先案
	6月 一般演題の査読依頼 主要プログラム座長の依頼 ポスター完成・発送 中日新聞社への後援名義依頼	<ul style="list-style-type: none"> 主要プログラム案および日程表・会場使用計画案（継続）：会場下見の結果に基づく会場使用計画の修正 主要プログラムの座長決定 一般演題登録数の確認、査読委員への査読演題振り分け 懇親会の来賓および招待者 演者等への謝品および参加記念品案 参加呼びかけポスターの発送先最終案

表1 第10回日本救急看護学会学術集会 工程表

No. 2

時期	学会事務局（実務）	企画委員会・各委員会の検討事項
7月	一般演題の採否結果の送付	<ul style="list-style-type: none"> 一般演題の査読結果と修正依頼 一般演題の座長候補者 ボランティアの人数と募集方法 懇親会の招待者決定、アトラクション案 参加記念品案（継続） 市民公開講座チラシ案
8月	懇親会招待者への招待状発送 市民公開講座のチラシ印刷	<ul style="list-style-type: none"> 一般演題の決定と発表群分け案 一般演題の座長候補者（継続） 会場使用計画の決定 学術集会当日の企画委員・実行委員・ボランティアの配置案
9月	ネームカード印刷発注 カメラマンとの打ち合わせ 実行委員およびボランティアの依頼	<ul style="list-style-type: none"> 日程表最終案 一般演題座長の決定 会場設営案、看板設営案、ネームカード案 学術集会当日の企画委員・実行委員・ボランティアの配置案（継続） 参加記念品決定 懇親会次第 全体収支案（継続） 市民公開講座の告知方法 学術集会当日のプレスへの対応方針
10月	プログラム・抄録集の完成、発送 ホームページにプログラムの掲載 会場使用計画の最終打ち合わせ 学術集会開催時の飲食関連の発注	<ul style="list-style-type: none"> 運営マニュアル、会場レイアウト、会場使用計画、看板の決定 学術集会当日の企画委員・実行委員・ボランティアの配置の決定 懇親会次第の決定、懇親会チラシ 協賛企業の確定 全体収支案 市民公開講座の告知促進
11月	6日：実行委員・ボランティアのオリエンテーション 日本救急看護学会理事会・各委員会・評議員会の開催 7-8日：第10回日本救急看護学会学術集会および総会の開催	
	演者・座長・協賛企業等への礼状送付	
09年	12月 ・日本救急看護学会理事会への学術集会開催概要および収支決算の報告 1月 2月 ・助成を受けた団体への事業実施報告書提出 3月 ・記録写真集の作成・送付	<ul style="list-style-type: none"> 学術集会開催概要 収支決算概要

なお、学術集会プログラム・抄録集の編集作業は、企画委員会とは別に選出された編集委員によって行われました。

3) 渉外・広報委員会

渉外・広報委員会の役割は、本学術集会の開催を会員や社会の人々に広めるとともに、学術集会開催に必要な資金を集めることでした。

広報活動として、ポスターは演題募集用と学術集会への参加呼びかけ用の2種類を作成することとしました。ポスターのデザインを名古屋市立大学芸術工学研究科に依頼し、ピンク地に救急看護と名古屋を印象づけるユニークなデザインのポスターができあがりました。ポスター以外にも看護系雑誌に学会開催告知を掲載しました。

もう一つの重要な役割である資金集めは、時世を反映して相当苦労しました。まず、資金集めの方法を募金、

ランチョンセミナー、展示、広告として趣意書を作成し、協賛が期待できそうな企業に配布しました。そして、渉外・広報委員会を中心に企画委員全員が人脈を頼りに精力的に活動しました。その結果、最終的に助成2件、寄付15件、ランチョンセミナー7件、展示協賛30件、広告掲載42件となり、目標に近い金額に達しました。また、学術集会当日の機材提供1件、ドリンクサービス協賛3件の協力を得ることもできました。

4) 会場運営委員会

会場運営委員会の役割は、会場の設営計画と学術集会当日のスムーズな運営でした。

会場の設営計画は、プログラムの進捗状況と並行して進められました。また、会場の下見を行い、学術集会当日の参加者の動線を考慮して、参加受付・スライド受付・クロック・各会場・懇親会会場などの最適な位置と案内

板の設置などを検討しました。

学術集会当日の運営にはボランティアを募集することとしました。受付や各会場の責任者に企画委員を配置し、学術集会の前日と開催当日に必要なボランティアの人数を検討しました。そして企画委員の所属する施設を中心に募集し、87名の協力を得ることができました。また、運営実施マニュアルが作成され、企画委員全員が当日の自分の役割を確認しました。

5) 懇親会委員会

懇親会委員会の役割は、懇親会の開催準備と当日の進行、そして学会参加者への記念品の検討でした。

今回の学術集会は第10回という節目の開催であったため、日本救急看護学会理事長から、学会設立時にご尽力いただいた方々を招待するよう依頼されていました。また、会場の立地条件も含めて考えると、250名以上の参加者が見込まれました。このような懇親会にふさわしく、名古屋での開催であることをふまえて、アトラクションにはジャグリングと「なごやどまつり」を企画し、料理には名古屋めしも準備することとしました。

学会参加者への記念品は、資金集めが難航していましたので、決定までに時間を要しました。実用的で記念になり、予算に見合ったものがいくつも提案され、最終的に布製のコングレスバッグを準備することとしました。また、講演者や座長に特別な記念品を贈呈する学会もありますが、本学術集会では実用的な図書カードとしました。

6) 庶務・会計

庶務の役割は、学術集会準備の工程管理や全体の調整でした。具体的には、企画委員会の開催準備や議事録作成、ホームページ管理、書類等の作成、物品の管理などでした。

会計の役割は、文字通り金銭出納の管理でした。具体的には、口座開設、予算案の作成、助成申請、参加費・懇親会費の受付および講師謝金等の支払い方法の検討、学術集会当日の金銭管理、決算書の作成などでした。

7) 学術集会当日の準備・運営

学術集会開催の前日午後に企画委員とボランティアに対する学会運営のオリエンテーションを行いました。その日は日本救急看護学会の理事会や評議員会が開催されていたので、一部の会員の参加受付を開始しました。

そして11月7日朝、いよいよ学術集会の本番を迎えました。参加受付はすべて当日行うこととしていたため、朝の受付の混雑が心配されました。また、企画委員とボランティアは、ほとんどが初対面で、勤務の都合で前日

のオリエンテーションに参加できなかった人もいました。そのため、スタッフ間の連携が懸念されました。しかし、普段の臨床現場で培われた皆さんのチーム力と臨機応変の対応で大きな問題もなく、2日間の学術集会を進行することができました。

なお、以上の開催準備は、学会委託業者と綿密に連絡を取りながらすすめられました。

2. 学術集会の開催

1) 講演等の概要(表2)

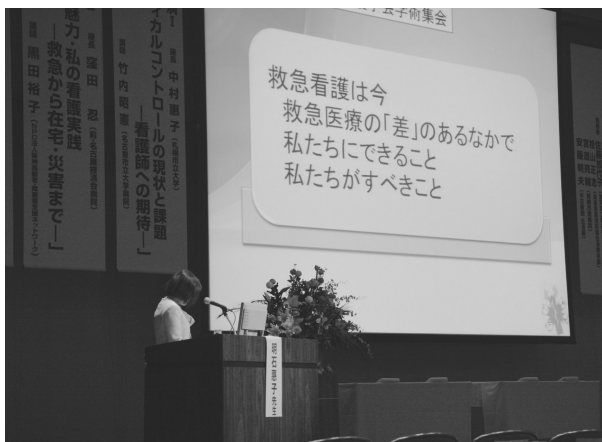
日本救急看護学会設立からちょうど10年、節目の開催である本学術集会では、救急医療・救急看護の社会的な問題を探求したいという思いがありました。これは、明石が学術集会長を拝命した時から考え続けていたことであり、それを表したのがメインテーマ「救急看護は今救急医療の『差』のあるなかで私たちにできること・私たちがすべきこと」でした。そしてその核となるプログラムが会長講演とシンポジウムであり、他のプログラムでも、救急医療・救急看護が抱えている社会的な問題に救急看護師がどのように取り組むべきかを議論していただきました。

学術集会の最初のプログラムである会長講演は「救急医療の『差』に思う」でした。最近の救急医療に関する報告や救急医療現場の生の声、そして明石自身の体験をもとに救急医療・救急看護の差の現状を取り上げました。これをメインテーマに対する問題提起とし、続けてシンポジウムⅠを行いました。「救急医療・救急看護における『差』－現状とその要因－」について看護師、医師、救急救命士、市民の立場から「差」の現状をご報告いただき、その要因を検討していただきました。そして、その議論を学術集会の最後のプログラムであるシンポジウムⅡ「救急医療・救急看護における格差是正に向けた提言」につなげました。臨床現場におけるさまざまな取り組みをご報告いただきながら、救急医療を最前線で支える看護師が格差是正に向けて明日からでも実施できることを提言していただきました。

招聘講演では鎌田實先生(諏訪中央病院名誉院長)をお迎えし、「『がんばらない』けど『なげださない』－いのちを支えるということ－」をご講演いただきました。鎌田先生の精力的で心温まるご活動に会場全体が感激し、自分たちにできること・すべきことを考える機会になりました。また、特別講演として、山田耕二先生(トヨタ自動車株式会社社会貢献推進部)に「ひととくるまの未来に向けて－歴史に学ぶ発展と原点－」をご講演いただきました。名古屋を代表する企業の発展の歴史を知る機会となりました。

第1日:2008年11月7日						第2日:2008年11月8日						
会場	第1会場	第2会場	第3会場	第4会場	第5会場	会場	第1会場	第2会場	第3会場	第4会場	第5会場	会場
施設名	白鳥ホール	レセプションホール	会議室133+134	会議室133+134	3階432+431	白鳥ホール	レセプションホール	会議室131+132	会議室133+134	会議室141+142	3階432+431	白鳥ホール
8:00												
9:00	開会式 9:25~9:30											
10:00	シンポジウムI 「救急医療・救急看護における「産」一環状との要因」 10:20~12:00	緊急看護委員会 企画 交流会 「救急変化する患者への健康指導は十分か」 10:20~11:40	口演 1群 10:20~11:10 初級看護 (5題)	口演 4群 10:20~11:10 救急看護! (5題)	交流会 I 「フレホスピタルケア ネットワーク」 10:20~11:40	教育講演 「ひととくまの未来 に向けて～産科に学ぶ 山田耕二氏」 10:30~12:00	緊急看護委員会 「緊急医療・救急看護におけると インシデント・エラー」 10:40~12:00	口演 7群 9:10~10:00 看護観1 (5題)	口演 8群 10:10~11:00 看護観2 (5題)	口演 13群 9:10~10:00 精神看護1 (5題)	交流会IV 「小児救急看護とトリ アージ」 9:10~10:30	
11:00												
12:00												
13:00	シンポジウムII 「おんぼろな産科 」 14:10~15:40	シンポジウムII 「救急医療・救急看護の発展に向けて」 14:40~16:20										
14:00	総会 13:10~14:00											
15:00	教育講演 I 「メタ認知・コンテ 」 15:50~16:50	教育講演 II 「救急看護と臨床に 」 16:50~17:40										
16:00												
17:00												
18:00												
19:00												
20:00												

図2 第10回日本救急看護学会日程表



師への大きな期待が込められていました。また、「救急看護と臨床に根差した研究」をテーマとしたセミナーも行われました。

交流集会は、「プレホスピタルとフライトナース」、「救急領域における看取りの看護」、「基礎から学ぼう 救急初療室におけるフィジカルアセスメント」、「小児救急看護とトリアージ」、「自殺予防と救急看護」の5つのテーマで行われました。これらは、救急医療現場で働く看護師が日常的に直面している問題であり、それぞれのテーマに関心をもつ多くの聴衆が参加し、議論しました。

地域貢献としての市民公開講座のテーマは、「自分の『いのち』は自分で守る」でした。生活習慣病予防の必要性についての講演とともに、蘇生人形と体外式自動除細動器を使用した実技演習を行いました。

以上のプログラムに加えて、口演およびポスターによる一般演題149題の発表が行われました。各会場には人があふれ、活発な議論が行われました。

教育講演は、竹内昭憲先生（名古屋市立大学病院救急部長 当時）による「メディカルコントロールの現状と課題—看護師への期待」、黒田裕子先生（NPO法人阪神高齢者・障害者支援ネットワーク理事長）による「看護の魅力・私の看護実践—救急から在宅・災害看護まで—」、稲葉一人先生（中京大学法科大学院教授）による「救急看護における法問題の解決に向けて」、平尾明美先生（青森県立保健大学講師 当時）による「救急看護の質を高めるために必要な教育」の4講演でした。これらは、救急医療・救急看護を实践するために不可欠な知識として企画したテーマでしたが、それぞれに講師の救急看護

2) 参加者等

本学術集会への参加者は、会員901名、非会員688名、学生29名の合計1618名でした。これは、これまでの日本救急看護学会学術集会参加者の最高記録であり、非会員の割合が高くなっていました。名古屋という立地条件の

良さに加えて、学術集会のメインテーマや企画内容に多くの方々に関心を持ってくださった結果であると考えています。

なお、本学術集会は、社団法人愛知県看護協会、愛知県、名古屋市、中日新聞社の後援をいただいて開催されました。

以上、成功裡に終了した第10回日本救急看護学会学術集会の準備と開催を報告させていただきました。実は、学術集会の準備を進めるにあたり、「救急医療の差」という大きなテーマを掲げたことに不安が高まった時期もありました。しかし、救急医療に関するニュースを目にするたびにテーマへの重要性を実感し、続々と集まる抄録原稿を読むにつれてテーマへの思いがますます強くなりました。そのようななかで学術集会当日を迎え、プログラムも順調に進み、最後のシンポジウムで「私たちにできること・私たちがすべきこと」の具体的な提言をしていただくことができました。あの瞬間、このテーマにしてよかったと心から思うとともに、何かが始まるという期待がわいてきました。

本学術集会にご参加、ご協力くださったすべての皆様に心より感謝申し上げます。

第10回日本救急看護学会学術集会 企画委員会

プログラム委員会 白井千津

小倉久美子

笠原真弓

川谷陽子

山口弘子

会場運営委員会

伊藤稔子

角由美子

寺村文恵

野村勢津子

森田雅美

渉外・広報委員会

村上睦始

大原美佳

奥田晃子

脇田恵美子

懇親会委員会

野田洋子

神谷弥生

坂田久美子

長谷川幸雄

水野千枝子

庶
会

務
計

二本柳圭

村川由加理

